

# 市民意識調査 概要

## 1. 調査概要

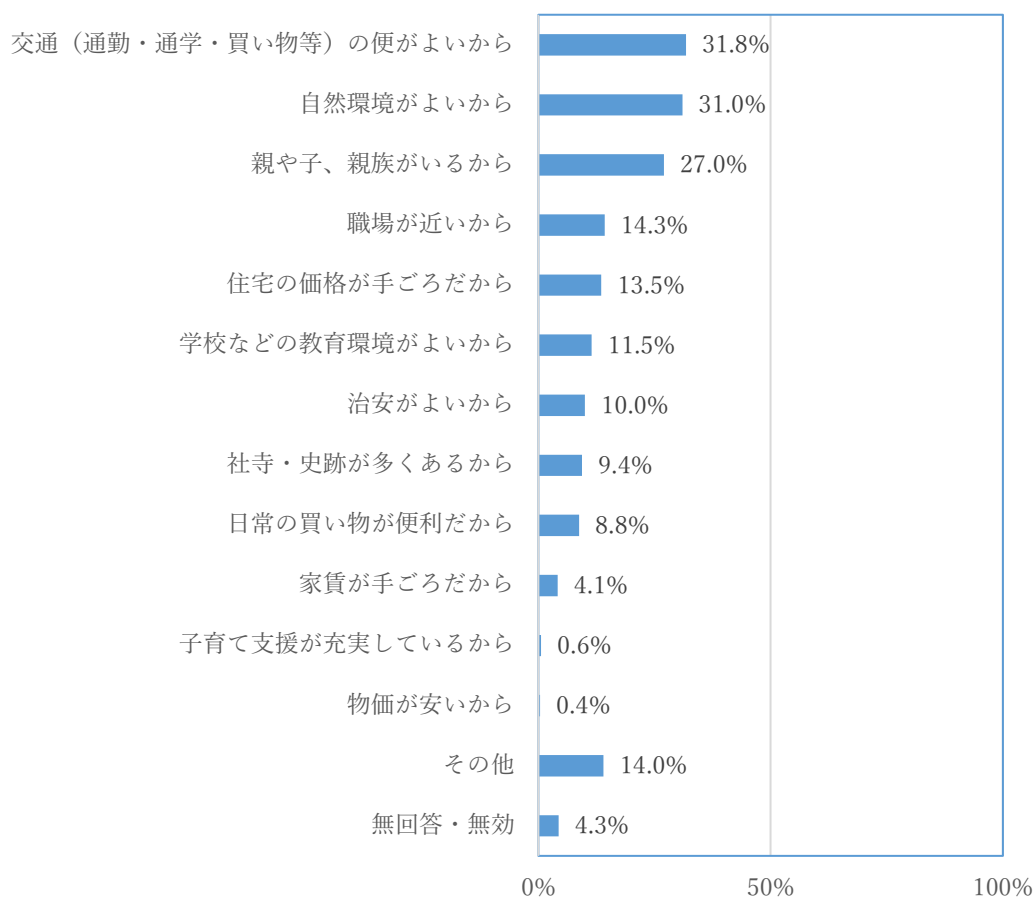
- (1) 目的 「奈良に住みたい」「これからも奈良に住み続けたい」と感じられる魅力あるまちづくりをめざし、市民の皆さんの率直なご意見をお伺いし、今後の奈良市政のあり方を考える資料とすることを目的とする。
- (2) 調査対象 奈良市にお住まいの18歳以上の男女各1,500人を無作為に抽出
- (3) 調査方法 郵送配布、郵送回収によるアンケート調査
- (4) 設問数 24項目（質問数34問）
- (5) 調査期間 平成29年3月9日（木）から3月24日（金）
- (6) 有効回答率 62.9%（回答数：1,888/3,000）  
※参考：前回調査（平成23年度）60.3%

## 2. 今回の調査で判明した主な結果

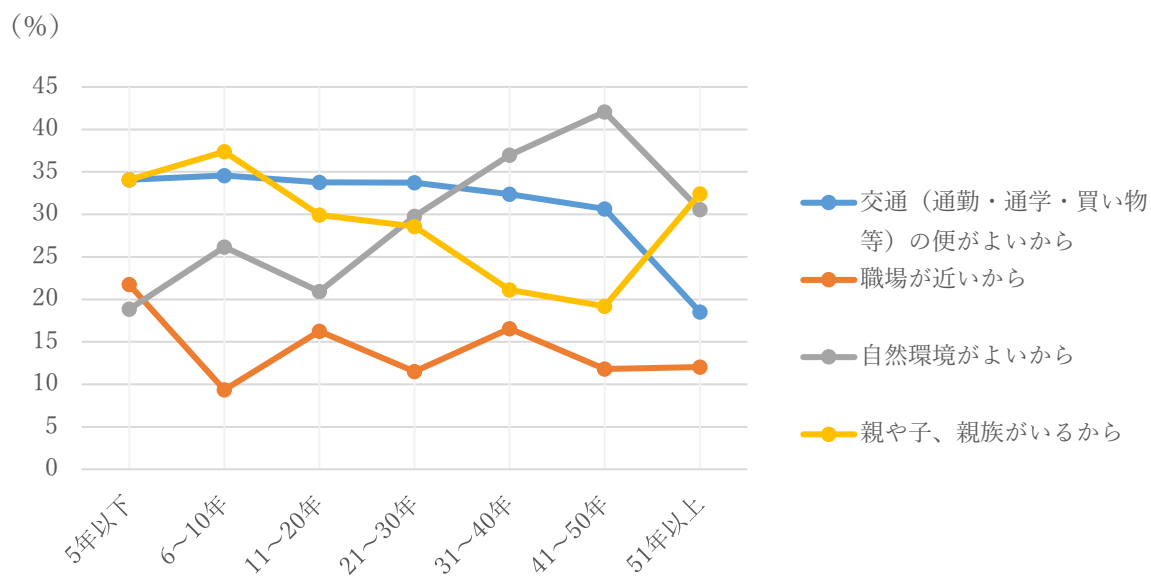
○「奈良市を転居先を選んだ理由」という問いに対して、「交通（通勤・通学・買い物等）の便がよいから」が31.8%と最も多く、続いて「自然環境がよいから」が31.0%、「親や子、親族がいるから」が27.0%となっている。

特に、住居年数が長い人については「自然環境がよいから」を選んでいる割合が高く（41～50年、42.1%）、住居年数が10年までの人は「交通（通勤・通学・買い物等）の便がよいから」（6～10年、34.6%）、「職場が近いから」（5年以下、21.7%）、「親や子、親族がいるから」（6～10年、37.4%）を選択している割合が高い。

問7-2 奈良市を転居先を選んだ理由

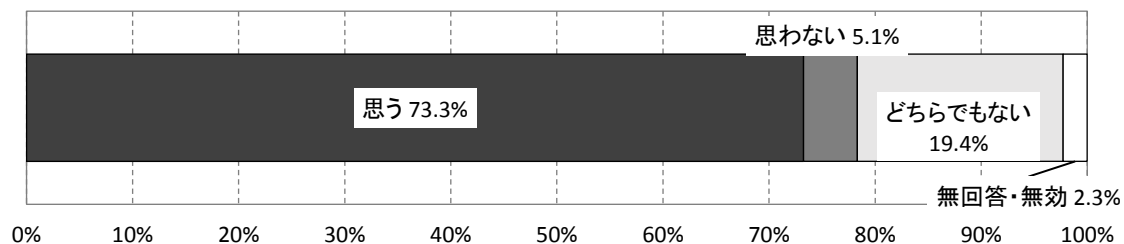


(問7-2：クロス集計：住居年数別・) 奈良市を転居先に選んだ理由



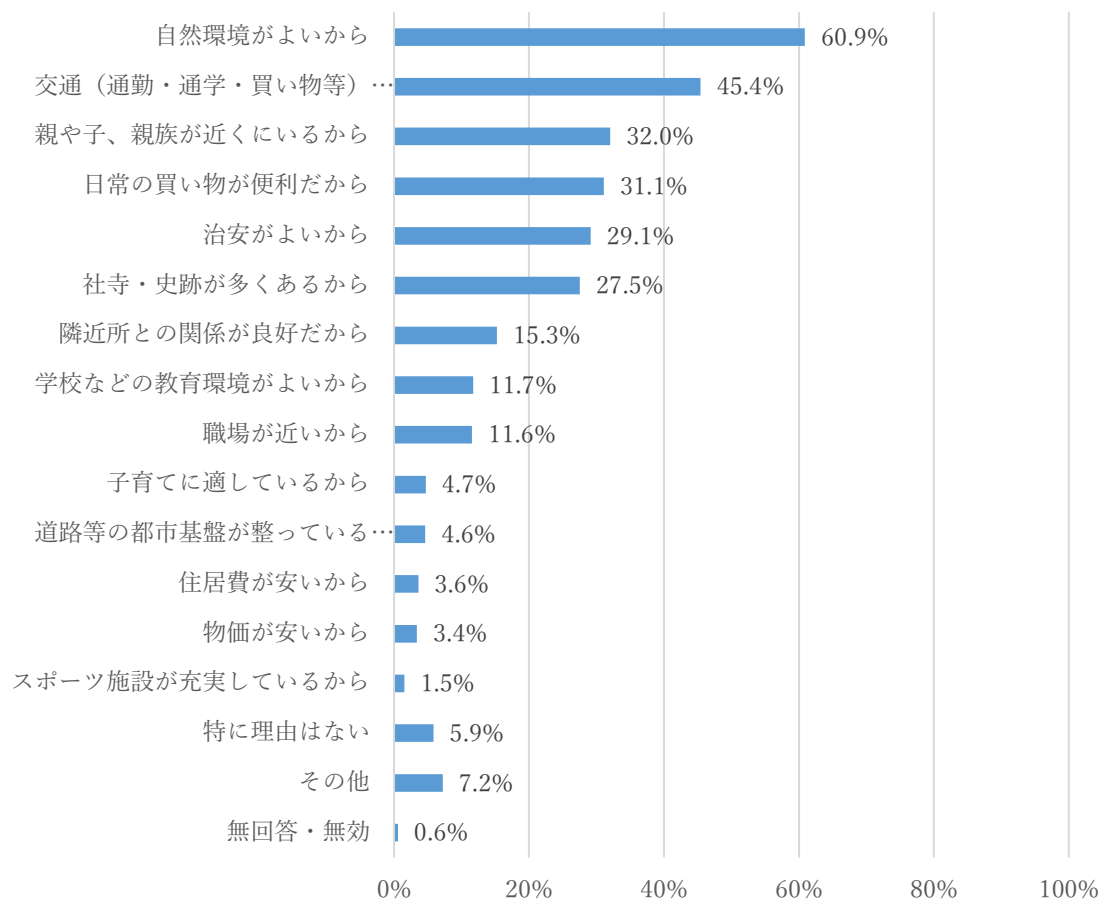
○「これからも奈良に住み続けたいと思いますか」という問いに対して、73.3%が「思う」と回答している。

### 問9 これからも奈良に住み続けたいと思いますか

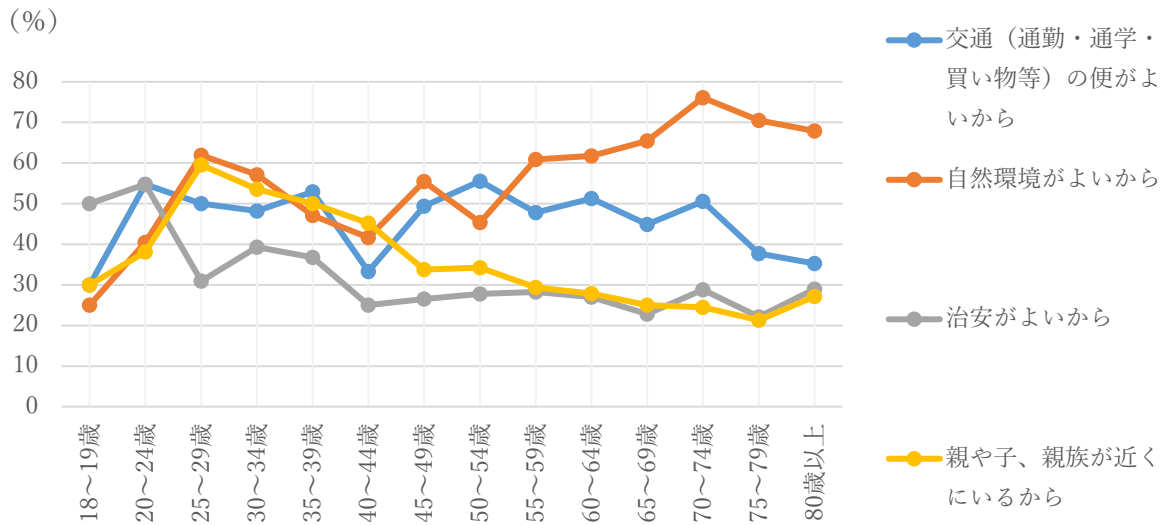


その理由について、自然環境がよいからが60.9%と最も多く、高齢者になるほど選択する割合が多い。続いて、交通（通勤・通学・買い物等）の便がよいからが45.4%となっている。

### 問9-2 住み続けたい理由

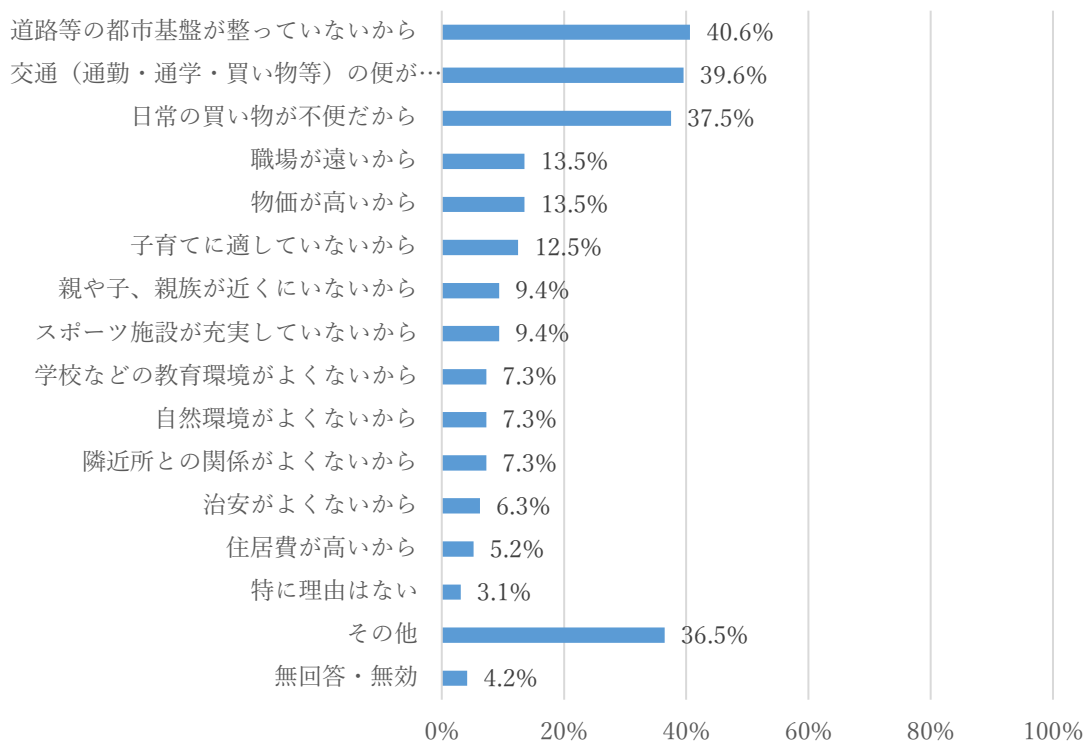


### (問9-2：クロス年齢別) 住み続けたいと思う理由



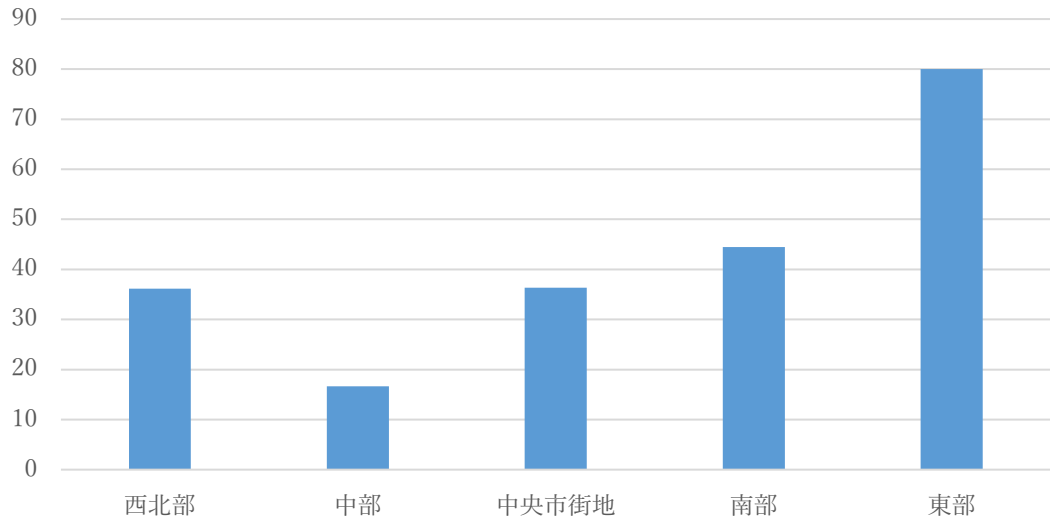
「思わない」の理由については、「道路等の都市基盤が整っていないから」が40.6%、「交通（通勤・通学・買い物等）の便がよくないから」が39.6%、「日常の買い物が不便だから」が37.5%となっている。

### 問9-3 住み続けたいと思わない理由



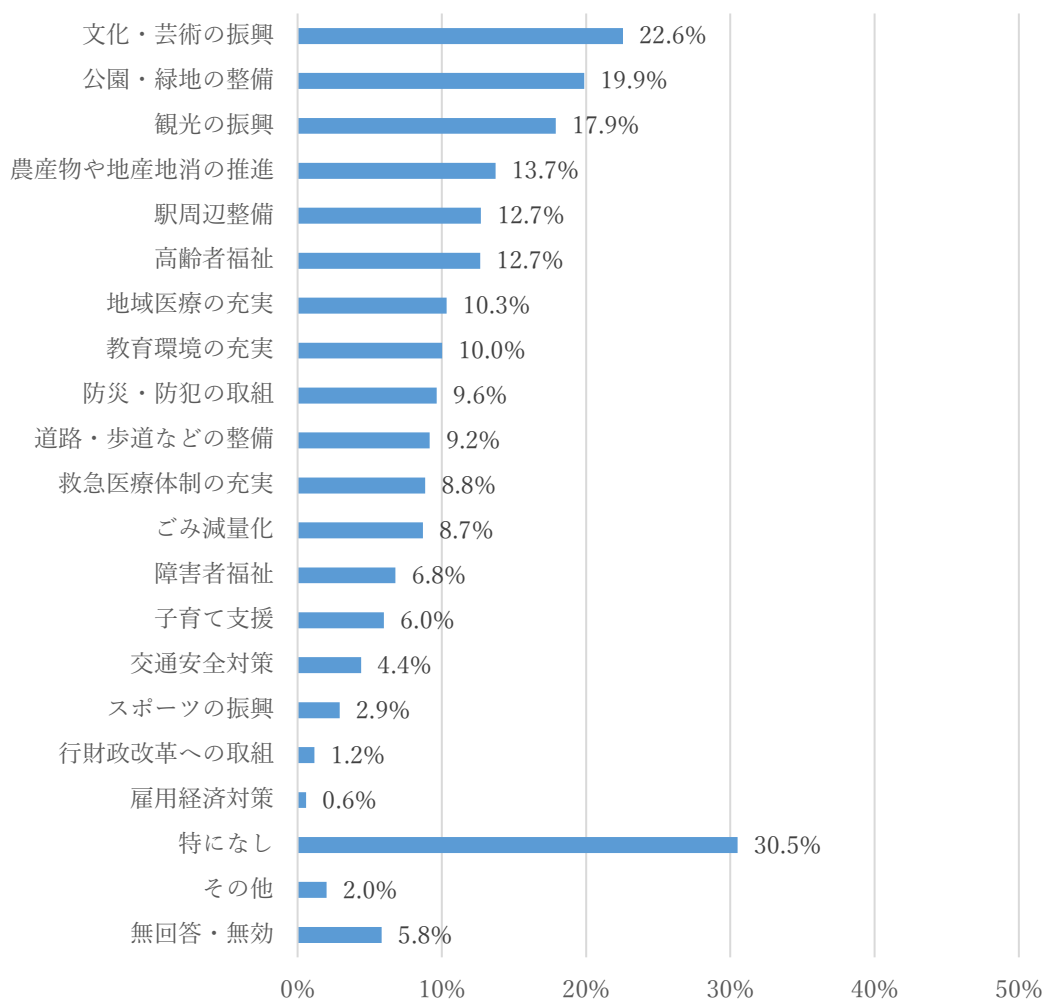
(問9-2 クロス：地域別)

(%) 「道路等の都市基盤が整っていないから」を選択した人



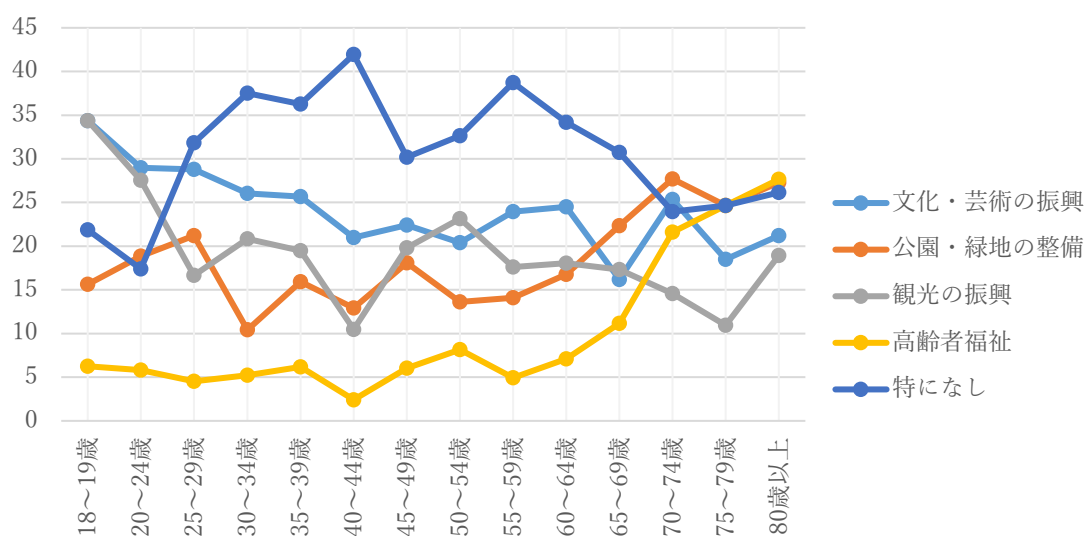
○「奈良市の施策で評価するものはどれですか」という問いに対し、「文化・芸術の振興」(22.6%)、「公園・緑地の整備」(19.9%)、「観光の振興」(17.9%)という順になっている。

### 問11：奈良市の施策で評価するものはどれですか



若者は、「文化・芸術の振興」と「観光の振興」を評価している割合が他と比べて高く、  
 高齢者は「地公園・緑地の整備」「高齢者福祉」を評価している割合が他と比べて高い。

(%) (問11：クロス：年齢別) ・奈良市の施策で評価するもの



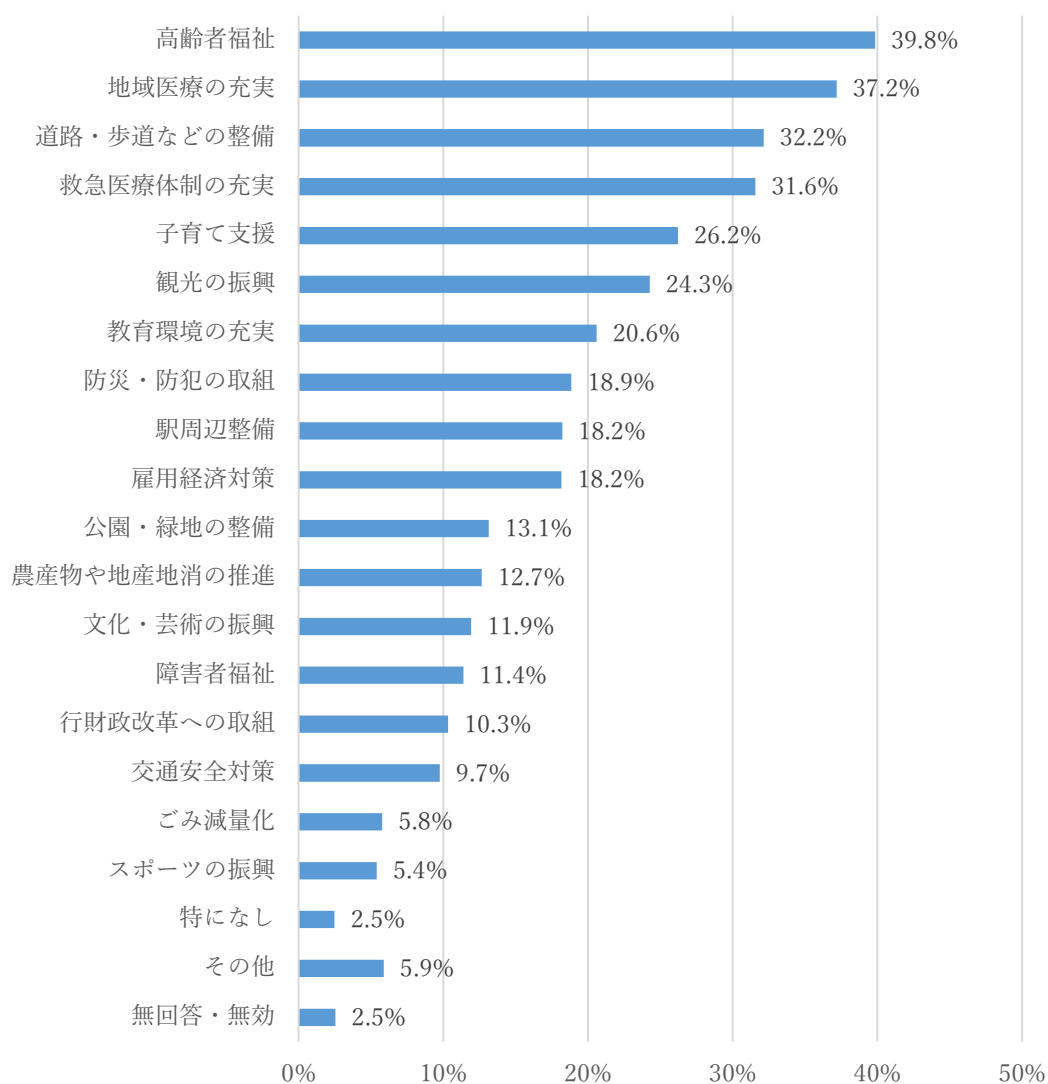


○「奈良市が今後さらに力を入れるべきだと思うものはどれですか」という問いに対して、「高齢者福祉」が39.8%で最も高い。

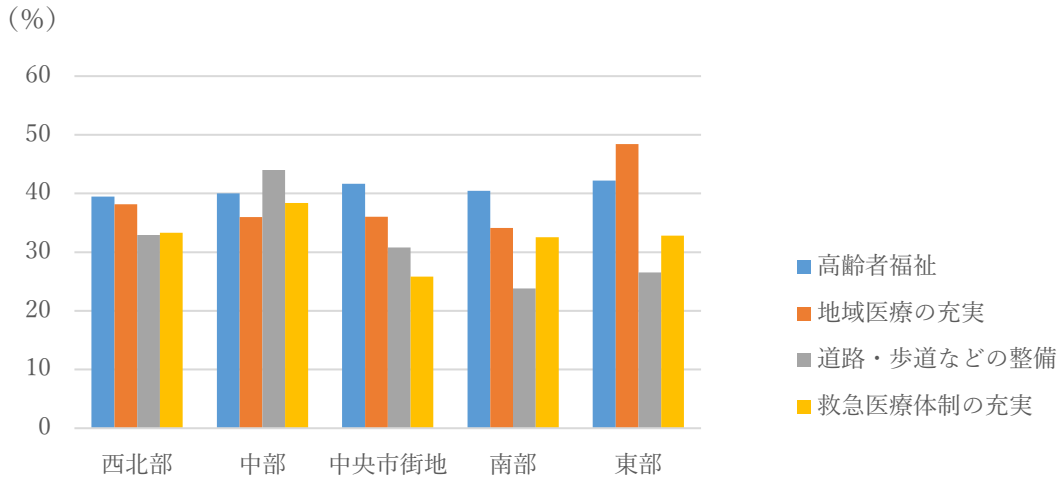
次に、「地域医療の充実」が37.2%で、地域別では東部が48.4%で最も高い。

次に「道路・歩道などの整備」が32.2%で、地域別では中部が44.0%で最も高い。

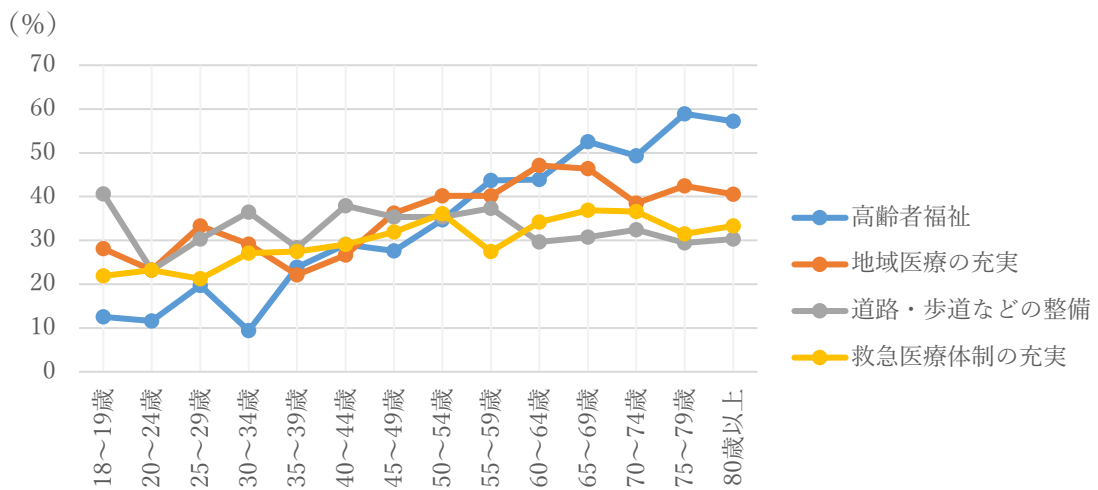
### 問13 今後さらに力を入れるべきだと思うもの



(問13：クロス：地域別) 今後さらに力を入れるべきだと思うもの



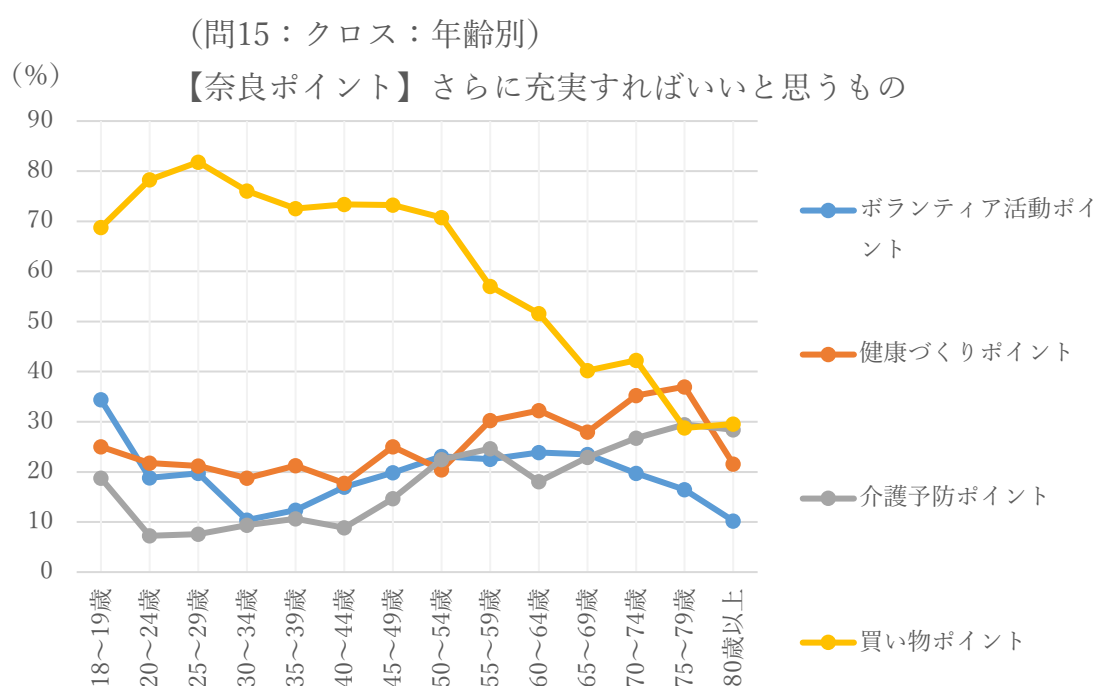
(問13：クロス：年齢別) 今後さらに力を入れるべきだと思うもの



○「あなたはポイント制度を利用したことがありますか」という問いに対して、93.7%が利用したことがない。

「ポイントが貯まる事業で、さらに充実すればいいと思うものはどれですか」という問いに対して、全体では買い物ポイントが53.8%で最も高い。

年齢別では、若者（25～29歳がピーク）が買い物ポイントの充実（81.8%）、高齢者（75～80歳がピーク）が介護予防ポイント（29.5%）、健康づくりポイント（37.0%）の充実、中年層がボランティア活動ポイント（23.1%）の充実を望んでいる。



○防災については、自分の避難所を知っている人は78.7%であった。居住年数別で見ると5年以下の人の41.1%が知らないと回答していて、次いで6年以上10年以下の人が30.3%となっており、居住年数が少ないほど自身の避難所についての認識が低い。災害に対しては87.9%が何らかの備えをしており、水の備蓄が40%と最も多く、次いで食料の備蓄が30.5%となった。

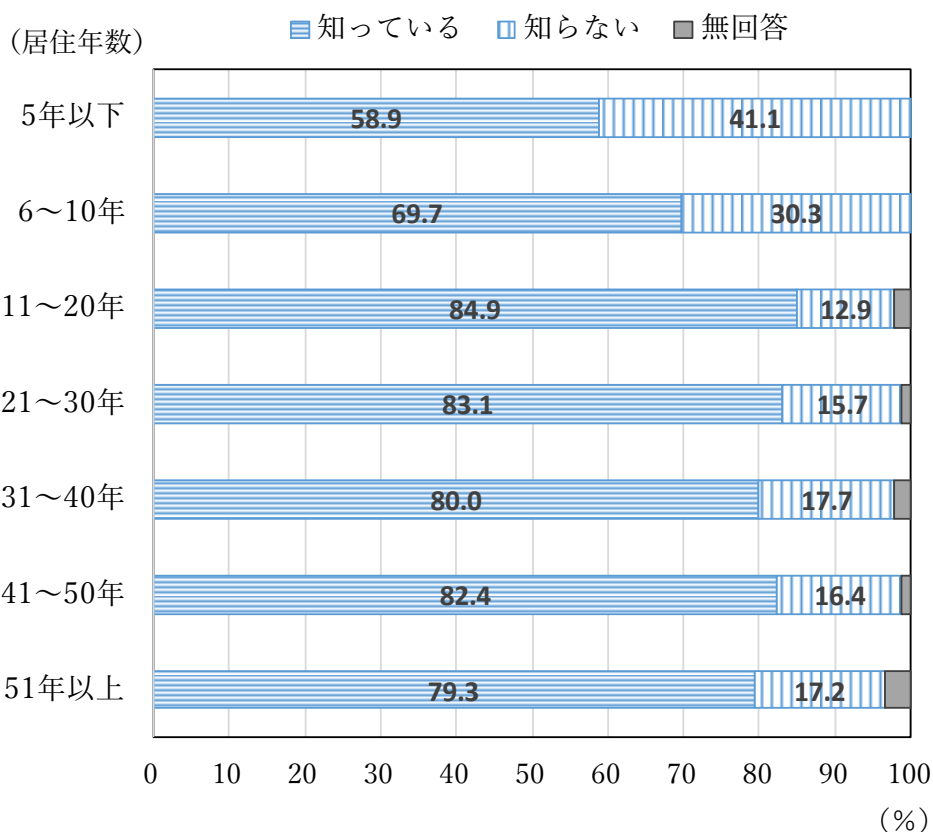
問17：

ご自身が避難すべき避難場所を知っていますか

	回答数	回答率
知っている	1,486	78.7%
知らない	353	18.7%
無回答・無効	49	2.6%
計：	1,888	100.0%

(問17：クロス：居住年数別)

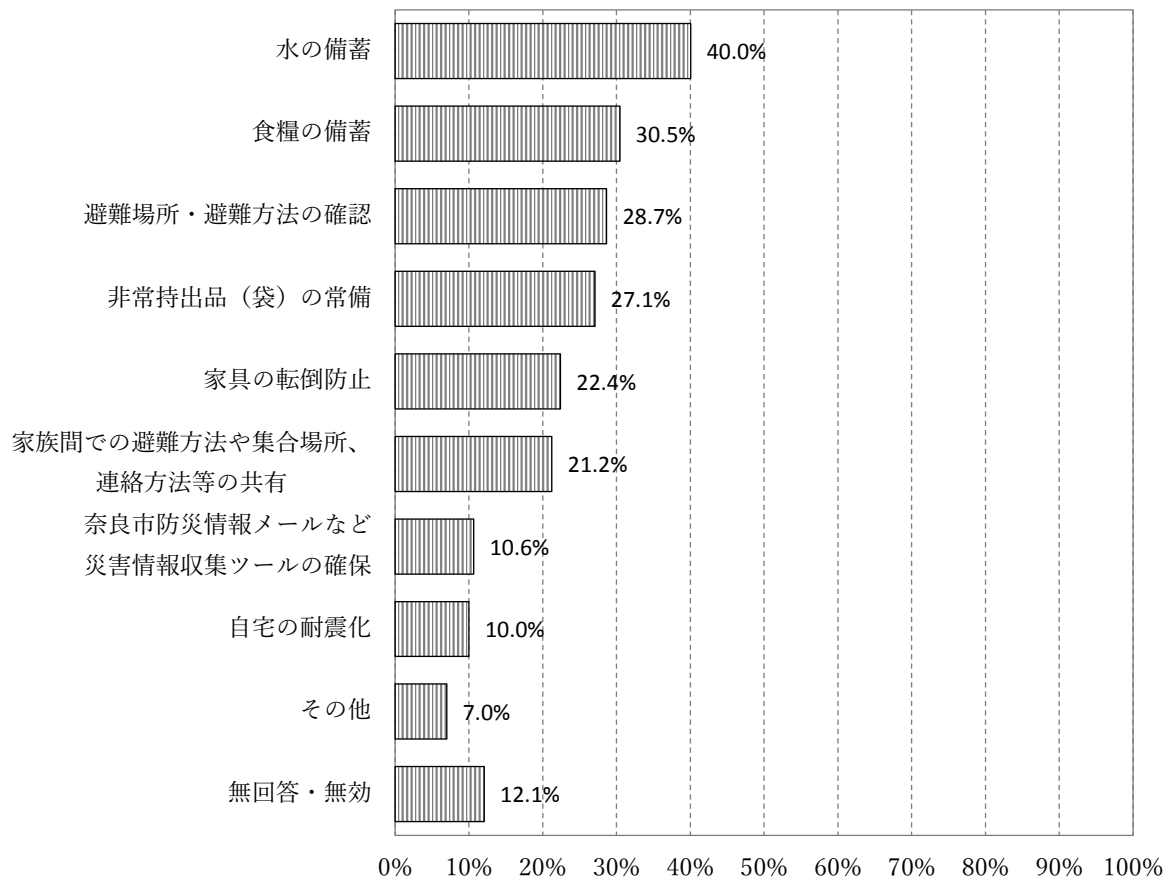
### 居住年数別・自身の一時避難所の認知度



○災害に対しては87.9%が何らかの備えをしており、水の備蓄が40%と最も多く、次いで食料の備蓄が30.5%となった。

問18

災害に備えてどのような準備をしていますか

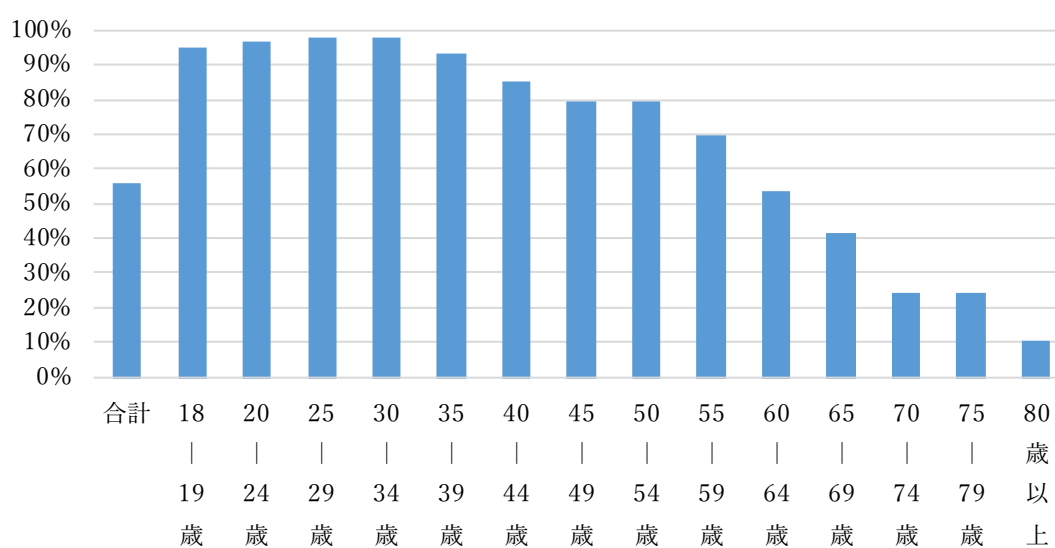


○通信機器の所持について、固定電話が79.3%と高くなっているが、スマートフォンとスマートフォン以外の携帯電話を合わせると89.9%となる。10～30代ではスマートフォンの所有率はいずれも90%を超えている。

問2 1 以下の通信機器のうち、お持ちのものは何ですか

	回答数	選択率
パソコン	1,178	62.4%
スマートフォン	1,031	54.6%
スマートフォン以外の携帯電話	667	35.3%
タブレット	431	22.8%
固定電話	1,498	79.3%
F A X	902	47.8%
特にない	44	2.3%
その他	11	0.6%
無回答・無効	34	1.8%
計	5,796	307.0%

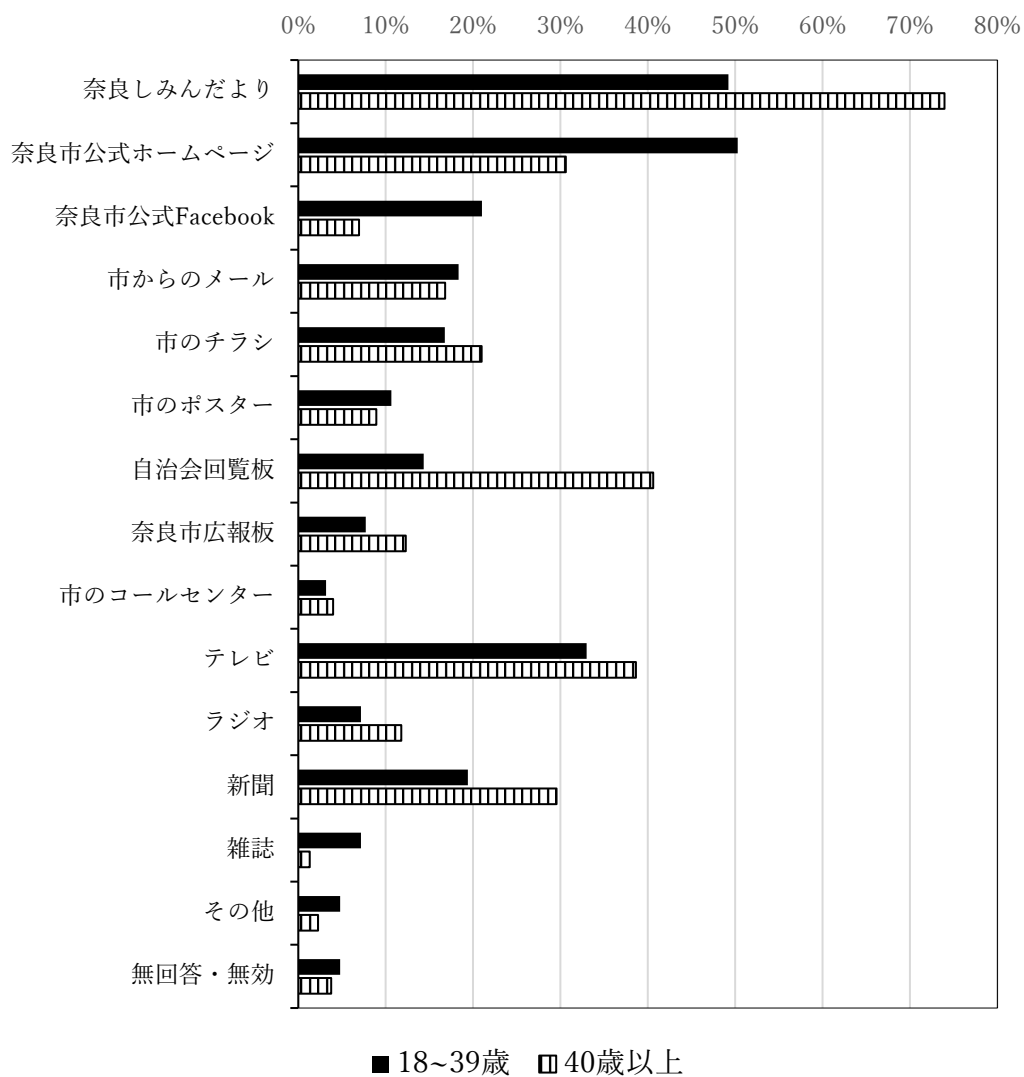
奈良市のスマートフォン所持率



○市政の情報収集手段については、40歳までがホームページやSNS等インターネット経由が高いのに対して、高齢になるほど奈良しみんだよりや自治会回覧板等、紙媒体のニーズが高い。

問22：年代別

市政の情報収集について



○「奈良市を誇りに思いますか」という質問に対して「とても思う」が16.8%、「まあまあ思う」が62.0%で、合わせると78.8%となった。その理由については歴史や社寺・史跡、世界遺産があることが多くの支持を集めた。

## 問24

